

平成二十九年 度

「高志の国文学」情景作品コンクール

入選作品集



平成29年度「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品一覧表

○文芸部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	水音	射水市立小杉中学校	3	浅野 滉太	風の盆恋歌
	高校生	ハッピーバースデー	富山高等学校	1	松田 わこ	越中万葉百科

○文芸(散文・詩)部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
金賞	高校生	秘密道具	高岡高等学校	2	大和 果鈴	ドラえもん
銀賞	中学生	家族をつなぐもの	黒部市立桜井中学校	3	芦崎 夕海	カノン
		近すぎて見えない美しさ	富山市立堀川中学校	3	笹倉 駿太郎	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	家族とは	富山西高等学校	2	草島 杏柚	おおかみこどもの雨と雪
銅賞	中学生	太陽の側に	高岡南高等学校	2	小嵐 龍太郎	サマーウォーズ
		富山って田舎だからダメ?	片山学園中学校	3	佐渡 美怜	家持の名歌
	越の国に生きる	富山市立堀川中学校	3	辻井 悠翔	万葉集	
	高校生	とべないホテルから広がる思いやりの輪	高岡高等学校	2	荒井 優芽	とべないホテル
佳作	高校生	雨降る後に	高岡高等学校	2	井波 由梨香	おおかみこどもの雨と雪
		いもの	高岡西高等学校	2	原 萌々花	高岡銅器史

○文芸(短歌・俳句)部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
金賞	中学生	おわら風の盆	富山市立堀川中学校	3	山下 祈子	風の盆恋歌
	高校生	おおかみこどもの雨と雪を読んで	富山高等学校	1	松井 杏輔	おおかみこどもの雨と雪
銀賞	中学生	無題	南砺市立福光中学校	3	細川 依露	おおかみこどもの雨と雪
		無題	片山学園中学校	1	木村 洸斗	まんが道
	高校生	夏の一場面	大門高等学校	1	坂下 隆将	夜の花火
		雨晴	高岡高等学校	2	金田 依里香	万葉集
銅賞	中学生	新湊曳山祭	片山学園中学校	2	高橋 勇樹	人生の約束
		雨晴海岸	高岡高等学校	2	高橋 舞	越中万葉百科
	高校生	おわら風の盆	富山高等学校	1	桑原 詩乃	月影ベイブ
		飛鳥へそしてまだ見ぬ子へを読んで「輝く命」	富山高等学校	1	村田 みのり	飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ
佳作	中学生	雪蛍	射水市立射北中学校	3	松尾 凜夏	螢川
	高校生	富山の伝統	高岡西高等学校	1	坂森 加奈	富山の伝統ある場所や物

○美術部門

賞	題名	学校	学年	名前	題材	
知事賞	中学生	夕日に照る立山と稲穂	富山市立北部中学校	2	田近 志織	万葉集
	高校生	たち山とはいつきの河	富山中部高等学校	2	吉森 優菜	越中万葉歌碑めぐり
金賞	中学生	おわら風の盆	富山市立堀川中学校	3	山下 祈子	風の盆恋歌
	高校生	雪とかけた茶碗	小杉高等学校	1	西田 梨乃	納棺夫日記
銀賞	中学生	劔岳	富山市立堀川中学校	3	辻井 悠翔	劔岳<点の記>
		決意	富山市立堀川中学校	3	堀井 彩乃	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	浪漫	富山中部高等学校	3	長原 詩桜	人生の約束
銅賞	高校生	螢の森	富山中部高等学校	2	林 瑞稀	螢川
		岩瀬の曳山車祭	富山中部高等学校	2	松隈 健留	漂民 次郎吉
	中学生	雪の劔岳	富山北部高等学校	1	姉崎 咲良	劔岳<点の記>
		狼	富山北部高等学校	1	中田 麗	おおかみこどもの雨と雪
佳作	中学生	ライチョウ	富山市立堀川中学校	3	園城 咲来	ライチョウは生きる
		富山食	小杉高等学校	1	中谷 文香	富山なぞ食探検
	高校生	真白の恋	高岡高等支援学校	1	水野 佳乃子	真白の恋
		名宝	富山中部高等学校	2	守山 光星	とやまの滝

○写真部門

賞	題名	学校	学年	名前	題材	
知事賞	高校生	海の輝き	富山高等学校	2	大井 創世	山と溪谷
金賞	高校生	祭りの兄弟	高岡第一高等学校	3	米島 菜津美	風の盆恋歌
銀賞	高校生	平和への祈り	富山高等学校	2	渡邊 奈央	ルメイ・最後の空襲
		あしたへ	富山西高等学校	2	高橋 綾	RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ
銅賞	高校生	路地	高岡第一高等学校	1	草開 真弘	風のまにまに
		空へ	富山高等学校	2	横井 里奈	ドラえもん
		もう1つの立山	富山北部高等学校	1	関山 明里	富山の風景
佳作	高校生	桜祭り	泊高等学校	2	沢野 桜雪	富山 わがまちこー一番
		故郷の街並み	泊高等学校	2	大海寺 樹里	富山 わがまちこー一番
		時を超えて	富山東高等学校	1	西田 奈央	富山県を築いた人々
		涼花	富山東高等学校	1	中川 莉那	風の盆の町
		思い出のつまった海岸	富山北部高等学校	1	越 柚葵	ドラえもん

【文芸部門】

知事賞（中学生の部）

題材『風の盆恋歌』

水音

射水市立小杉中学校三年 浅野 滉太

溪流が

川幅ひろく

手を開き

おわらの音色

胸にとび入る

知事賞（高校生の部）

題材『越中万葉百科』

ハッピーバースデー

富山高等学校一年 松田 わこ

大伴家持様、一三〇〇回目のお誕生日おめでとうでございます。一三〇〇回目というとなかなかイメージしにくいですが、いにしえの時代に産声を上げられた家持様は、一三〇〇年間ずっと、富山県に暮らす人々の中で生き続けておられます。親しみを込めて、ここからは家持さんと呼ばせていただきます。

家持さんに、ぜひお伝えしたいことと、お聞きしたいことがあります。

まず、富山の自然や風土をたくさんの方に詠み込んで下さり、本当にありがとうございます。立山に夏も残る雪や、かわいい堅香子の花、美しい海など、私達がそこにあって当たり前と思っているものを、三十一音の歌という形で残して下さいました。それらの歌に触れるたび、私達はそんな自然をずっと大切にしようかと心に誓うと同時に、万葉集という日本最古の歌集にふるさとが登場している事実を、とても誇らしく感じるのです。富山県民は、「遠慮しすぎる」とか「宣伝が下手」と言われがちで、ふるさとについて県外の人に聞かれても、「なーん、なんにもないちゃ」と口をそろえて言うほどなのです。もしかして、そんな未来を、家持さんは予期しておられたのかも知れませんね。し

かし、家持さんの歌のお陰で、立山は県外の人にとっては大人気の観光スポットであり、県民にとっても雄大なシンボルとなっています。キラキラ輝く残雪は、何度見ても清々しい気持ちにさせてくれます。

さて、私は小さい頃から短歌に親しみ、歌を作ってきました。五・七・五・七・七の歌のリズムはとても心地良く、私の気持ちや心に残った風景を保存しておくにはちょうど良い入れ物だと感じています。家持さんの時代には、宴の席で歌を披露することも多かったそうですね。また、手紙の中に歌をしたためる機会もあったようです。ということは、「全く秘密の歌」というものは、存在しなかったのですか。というのも、私は時々、心の中を歌に詠み、誰にも見られたくないと感じたり、後で読み返して恥ずかしくなったりすることがあるからです。家持さんにも、内緒にしておきたい歌や、それらを書き留めた手帳のようなものがあったのでしょうか。今度、私にだけそっと聞かせてください。

家持さん、富山は自然を大切に守りながらも、少しずつ発展しています。新幹線という馬とは比べものにならないほど、速く旅ができる乗り物ができ、多くの方がこの地を訪れてくれます。家持さんのことを県民は愛し、家持さんの名前が付いたお菓子もたくさん作られています。一三〇〇年はとても長い年月だけれど、私達はいつでも「万葉集」の中で対話することができます。私は、家持さんの声は、きっと優しいテノールではないかと楽しく想像しているところです。

【文芸（散文・詩）部門】

金賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

秘密道具

高岡高等学校二年 大和 果鈴

引き出しを開ける

その奥はタイムマシンの虹色

いつへ 行こうか

窓の外を見る

その先は見たこともない景色

どこへ 行こうか

目を開く

ドラえもんも

秘密道具も

ない

だけど

大丈夫

どこへでも、いつへでも行ける

秘密道具は

僕らの想像力

銀賞（中学生の部）

題材『カノン』

家族をつなぐもの

黒部市立桜井中学校三年 芦崎 夕海

私は今、反抗期というものの真っ最中なのだと思う。友達に対しては素直になんでも話せて楽しいのに、父や母といるとなんだかイライラして、怒りたいわけではないのに怒鳴ってしまい、なんだか楽しくないと思うことがよくある。それに比例するように、父や母が不機嫌になることも増え、家族の中での喧嘩も多くなっている気がする。なにか頑張っていることがあっても、悪いところばかり注意される。腹が立ってすぐに言い返す。すると相手も怒って喧嘩になる。そんなことの繰り返しだ。

つい先日、私は「カノン」という映画を見た。この映画は私の住む黒部でたくさんのシーンが撮影され、私も撮影現場を見に行っていた。

「カノン」には、紫、藍、茜の三人の姉妹が登場する。物語は三人の祖母である辰子が亡くなり、三人が辰子の遺言状を受け取るるところから始まる。それには、亡くなったと思っていた母が今も生きていると記されていて、三人は悩みながらも、母がどんな風に生きていたのかを辿っていく。

この三人の母親はアルコール依存症で、映画の初めはすぐに怒鳴り散らす嫌な母として描かれていた。しかし、母についての過去が明らかになっていくと、映画のタイトルでもあるパッヘルベルのカノンという曲を三人に教えたり、依存症を治そうとお酒をがまんしたりと良い一面も見えてくる。そのことを知って少し戸惑う三人が、なんだか自分に重なった。家族と喧嘩して、もう顔も見たくない、いなくなっ

てしまえと本気で思うことさえあるのに、何かを頑張っている姿を見ると、許したくなってしまふ。そんな家族のあたたかな雰囲気がよく表現されていた。

もう一つ、印象に残ったシーンがある。それは、次女である藍の結婚披露宴で三人が三つのピアノでカノンを弾く場面だ。母のために、母に対する思いを全てこめて弾く三人はとても幸せそうに見えた。言葉は一つもないのに三人のありがとうという気持ちひしひしと伝わってきた。バラバラになっていた家族が「カノン」という曲によってつながった瞬間だった。

三人の姉妹と母親をつないだ「カノン」のように、私の家族にも私達をつなぐ見えないなにかがあるのかもしれないと、この映画を見て強く思った。自分にとって許せないことが起こったとしても、いつかは自然とそれを受け入れることができるようになっていく。それが本当の家族なのではないかと感じた。しかし、それに甘えてばかりではいけないとも思う。三人の姉妹とその母親は自分の思いを伝えなかったためにバラバラになってしまった。自分の本当の思いは、自分が伝えなければ相手には分からない。あたりまえのことではあるが、それは身近な人に対して一番忘れがちなことだと思う。私自身、家族が自分のことをすべて理解していると、心のどこかで思いこんでいて、自分が望んでいないことをされるとすぐに腹を立ててしまっていた。

「カノン」の三人のようにピアノを三台置き、思いを伝えるなんていう大きなことは私にはできない。そしてこの先、きっとまた父や母と正面からぶつかるのだろう。でもそれよりも多く、感謝の気持ちを伝えたいと思う。気持ちを伝えなかったことで後悔したくないから。はずかしくてなかなか言えないけど、まずはきちんと「ありがとう」と伝えることから始めていきたい。

銀賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

近すぎて見えない美しさ

富山市立堀川中学校三年 笹倉 駿太郎

富山県で生まれ育った人に聞きたい。山や自然を見て、感動したり、圧倒されたりしたことはあるだろうか。大半の人がないと答えるだろう。僕自身もそうであった。だが、異世界を通して見ると、本当の美しさが分かる。

「おおかみこどもの雨と雪」は二〇一〇年の夏に公開された細田守監督作の映画だ。狼と人間の間に生まれた「おおかみこども」の姉の雪と弟の雨の成長と、それを見守る人間の母である花の不安や葛藤を描いた作品である。特異な生い立ちをした二人の、自分自身の生き方を模索する姿と、見守り支える母の強い信念に心を打たれる物語だ。物語の中の場所は田舎の山の中にひっそりと建つ一軒家を中心として進められている。その家に三人は住み、学校で人間としての生き方を、山で狼としての生き方を学ぶ。注目してほしいのは、この田舎や山中の美しい描写だ。

雨と雪が幼い頃、駆け抜けた雪山。雨が力強く雄叫びを上げた雨上がりの山。雪が友達に囲まれて過ぎた学校。どの風景も美しくどこかなつかしく感じるものばかりだ。僕はこの風景に心の底から感動した。だがそれ以上に驚くべき事実を知った。富山県がモデル地になっているというのだ。

最初に述べたように富山の自然を見て感動したことはあまりない。だから、この物語のモデル地が富山だと知ったときは驚いた。まず花

が二人を育てるのに選んだ場所は上市町の里山がモデルになっている。

棚田ももちろん存在する。また、三人の家も存在する。現在は「花の家」と呼ばれ、多くのファンが訪れている。モデル地になっている上市町では、六月から八月頃は棚田の青田が見れ、八月から九月頃には雨と雪が追いかけたアカトンボが飛び回る。九月から十月には、美しい紅葉が、十二月から四月までは、二メートルを超える積雪が見られる。まさに物語の中にダイブできるのだ。映画の中盤からクライマックスに至るまでの感動的なシーンに華をそえる大自然の山々は立山がモデルになっているといわれている。また終盤のクライマックスである雨の一人立ちのシーンでは駐車場が描かれているが、そこは称名滝付近の駐車場がモデルになっている。

なぜ富山がモデル地になったのだろうか。監督の細田さんは富山県出身だ。ここからは僕の推測が混じってくる。細田さんは上市町で生まれ、その後金沢美術工芸大学へと進学した。そして富山に帰省したときに富山の風景の美しさに気づいたのではないだろうか。そして、その風景を多くの人に伝えたかったのではないだろうか。

今までなんてことのない、ありふれたものだった富山の風景。むしろ、さびれている印象が強かった。だが物語というフィルターを通して見ると、ガラリと印象が変わった。そばにありすぎて気づけなかった魅力が分かって、富山県という美しい場所に生きていることを誇りに思った。

銀賞（高校生部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

家族とは

富山西高等学校二年 草島 杏柚

映画「おおかみこどもの雨と雪」を見て感動しました。そして、小説ではどのような書き方がされているのだろう、映画で見た時と何が違い、作者の故郷である富山をどのように表現したのだろうと気になり、この本を読みました。すると、細かな心情や風景が描かれていて、とても心に残りました。

この話は、主人公の花がおおかみおとこに恋をし、子どもを二人産むところから始まっています。その後、夫が事故に会い亡くなり、花は一人で苦勞しながらもおおかみこどもたちの育児を始めます。やがて二人は成長し、これからの人生を自分たちで決めなければなりません。狼と人間、両方の血がまじったおおかみこどもとして生きる葛藤が成長するにつれてどんどん大きくなります。しかしその中で、心、友情、思いやり、愛を知っていく、個性を認め合いながら自分たちの進むべき道をみつけ、進んでいきます。

おおかみこどもという運命を幼いながらに背負って生きる雨と雪の辛さ、重さがありました。それでも自分の状況を受け止めて強く生きていく姿に感動し、自分はどうか生きるべきか、どのような存在なのか、自分がこれからのような決断をして、周りとうまく関わっていくのかということを考えさせられました。また、花がおおかみこどもとして生きることを決めた息子に対して「元気で、しっかり生きて」と言っている場面が印象的でした。母親として

息子を手放す寂しさと、息子を想う愛情に満ちていて、この言葉には簡潔にして最大の願いが込められている気がしました。そして登場人物の感情の変化がとてもしアルに書かれていたため、私もこうやって大人になっていくのだと実感しました。それと同時に家族の素晴らしさを感じさせてくれて、自分の母に「ありがとう」と伝えたくくなりました。

子どもが人生を選び取っていくことの切なさや嬉しさ、親になることの大変さ、自分の好きな生き方を決める重要性、自分のコンプレックスを受け入れられるようになる他者との出会いの大切さを知ることができました。また、現代女性が中心となって生きる社会を題材としているところにひかれました。女性が一人で子どもを育てていく辛さや苦しさだけでなく、花の強い生き方が描かれているところに魅力があります。おおかみこどもという周囲にばれてはいけない秘密をもっているため、誰にも頼れず孤独に子育てをする花ですが、それでも母と子の絆を大切に、母親としての意思、我が子を想う芯の強さ、慎ましく凛として生きる花の姿は憧れる母親像の一つです。素晴らしい家族愛を描く本であり、私も花のような母親になりたいと思いました。

銀賞（高校生の部）

題材『サマーウォーズ』

太陽の側に

高岡南高等学校二年 小嵐 龍太郎

躓いて 倒れて 仰向けになって
太陽の輝きを知った
地の温もりを知った

何時も見上げていた太陽が
自分の近くにあることを知って

何時も見上げていた太陽が
今は自分の横にいて

雨雲を切り開く太陽の光が
その光と共にある自分が
誇らしくて 嬉しくて

自分を包む温もりと
何時までも一緒に在るために
何度躓いて倒れても
足を進め続けるんだ

銅賞（中学生の部）

題材『家持の名歌』

富山って田舎だからダメ？

片山学園中学校三年 佐渡 美怜

北陸と関東を結ぶ北陸新幹線が開通し観光業が盛んになるなか、こんな話を耳にした。「北陸新幹線で北陸に来る人のほとんどは皆石川に行く。石川のほうが都会で見える所もたくさんあるから良い。それに比べれば富山は田舎で見る所も限られているからだめだ。」私は「それはどうだろうか。」と思ったが、同時に石川が富山より都会だという意見もわかる気がし、はっきりとした反論が思い浮かばず悶々とした気持ちだけが残った。

ある日、図書館でたまたま手にした大伴家持の歌集にこんな歌を見つけた。
「馬並めて いざ打ち行かな 渋谿の 清き磯廻に 寄する波見に（巻十七・三九五四）」

この歌は、奈良から越中の国守として富山に来た際に詠んだ歌で、都人の家持は渋谿の磯（雨晴海岸）の雄大な景色を目にし、心から感銘を受けたそう。私にとって富山の海は高速道から目にする程度の何げない景色だ。だが都人、しかも内陸から来た家持にとってはとても珍しく心が揺さぶられるような景色だったと知った。

この歌に出会い、私は前記の話に対しての良い反論を思いついた。それはこんな意見だ。「観光地の価値は、田舎か都会かではなく、心を動かす景色があるかどうかで決まる。富山には家持が歌に詠んだ雨晴海岸、黒部峡谷、称名滝、石川には白山、能登の海、兼六園など、どんな所にも必ず心を動かす景色がある。だから富山県と石川県のどちらのほうが見所が多いから良いなんて私達には決められない。」

家持の歌に出会い、都人から見た越中の良さを知った。これは現代の都会の人から見た富山の良さともいえるのではないのか。これからも家持の歌にたくさんふれて、私たちの住む故郷、富山の新たな良さを多くの人に伝えたい。富山の心動かす景色を多くの人に自分の目で見てもらいたい。

富山の、都会には無い良さを伝えること。それは富山に生まれた私達若い世代の重要な役割ではないだろうか。

銅賞（中学生の部）

題材『万葉集』

越の国に生きる

富山市立堀川中学校三年 辻井 悠翔

「万葉のふるさと」といわれる富山に住んでいながら、今まで全く万葉集に興味がなかった。というか知識もなかった。ところが、昨年公開された「君の名は」の劇中で「万葉集」が登場し、まさに目からウロコだった。

一五〇〇年前の古代と現代をつなぐことはできるのだろうか。この疑問が頭から離れず、この日以降、僕の中で万葉集は興味の対象となり、歌が詠まれた場所を訪れるようになった。万葉歌人といえば、もちろん大伴家持だ。

彼は二十九才の時、越中の国守として赴任し、五年間をこの地で過ごしている。華やかな都の生活から離れ、寂しい越中の国へと歩を進める彼の身上は、想像を絶するものだったろう。だから五年間の歌の大半は都への想いに費やされている。しかしそういう中であって、越中の豊かで広々とした、かつ、荒々しい風土は彼の心に新しい息吹を与えた。家持の歌人としての礎を築き、大成させたのは他ならぬ越中そのものだったと思う。

万葉集全歌首四五一六首のうち、家持は四七三首を詠み、越中では実に二二三首もの歌を詠んだ。この中で僕が一番心ひかれるのは、

立山の 雪し消らしも 延槻の 川の渡り瀬 あぶみ漬かすも

の一句だ。剣岳から流れ出した水は、今の早月川に流れ、富山湾へと一気に注ぐ。立山の雪解け水が、早月川に水しぶきを上げて流れる様子は、まさに急流河川の多い越中の風景だ。都では経験したことのない自然の姿を、自分の目で、見たまま、感じたまま素直に読んでいる。さらに、そこから春への期待まで予感させる家持の力に心打たれた。梅や桜の様な花で春の到来を告げるのではなく、雪解け水に驚きながらも、立山の雪が消えていくことに春への喜びを感じるというのは、越の国ならではの風景だと思った。自

然への恐怖を抱きながらも、そこに喜びを見出す。まさしく雪国のもつ原風景だ。

家持は、こうした歌をいくつも詠んでいる。

立山に 振りおける雪を 常夏に 見れども飽かず 神からなし

立山に降り積もった雪を一年中見ても飽きることはない。神に背かない山だから。春、稜線がくっきりと見え、雪の白さが際立つ美しさ。夏、所々に山肌が見え、白と茶色のコントラストが山の力強さを感じさせる。秋、山が色づき、再び雪に埋まる前の一瞬の輝き。冬、晴れ間に見える日に照らされた輝く山容。どれも得もいわれぬ景色だ。僕は小学生の時、毎日この景色を見ながら登校した。旅行で他県へ行くと、やはり立山連峰が一番だと思う。家持も、僕と同じ様に四季の変化を日々の生活の中で楽しんでいたのだろう。そのことが、僕にとっては何よりも嬉しい。

布勢の海の 沖つ白波 あり通ひ いや年のはに 見つづ俣はむ

そして、神々しく雄々しい立山連峰を後ろに振り返ると、全く別の景色が広がる。布勢の海水の白波が絶えず打ち寄せるように、ここに何度も通い、この眺めをめよう。

友も家族もない越の国で、彼の心をいやしたのは、山であり、水海であった。僕も心が疲れた時、風に吹かれながら、外の景色をよく見る。そして自然を感じる時、心がすーっと軽くなる自然と一体化した瞬間だ。この感覚が何とも心地よい。

一五〇〇年、そこには変わらぬ自然がある。当時とは姿が変わっても、風が吹き、山があり、川が流れる。それを感じる心は、今も昔も同じだ。この越の国の風土の中に、家持も、自分も存在し、つながっているのだと思う。空間の中に時間が存在しているだけだ。僕は、越の国の自然が大好きだ。家持の心は誰にも分からない。だが彼が、官人として歌人として、ここ越の国での暮らしが充実したものだっと思ったと感じていたと願いたい。

銅賞（高校生の部）

題材『とべないホタル』

とべないホタルから広がる思いやりの輪

高岡高等学校二年 荒井 優芽

「おかえり。お姉ちゃん。」

学校から帰宅した私に、弟は読んでいた本から顔を上げて言った。弟が読んでいたのは児童文学作品『とべないホタル』だった。この作品は、生まれつき羽が歪んでおり空を飛べず兄弟たちから遠巻きにされていたホタルがいたが、そのホタルが人間の子どもに捕まりそうになった時、一匹のホタルが身を呈して守る、という話である。私もこの作品を小学生の頃に読んだことがあった。懐かしくなった私は弟とこの『とべないホタル』について感想を言い合った。

作中には飛べないホタルのあまりの痛々しさに何も声をかけられない兄弟ホタル達が、飛べないホタルのもとから一匹、また一匹と離れていき、飛べないホタルがひとりぼっちになるシーンがある。私はこのシーンで弟に、もし自分が兄弟ホタルの立場だったらどのように行動するか尋ねてみた。弟は長い時間考えた後、「分からない。」と答えた。「僕もあのホタル達のように逃げてしまうかも知れない。」とも言った。そこで私は弟に私の考えを述べた。兄弟ホタル達は飛べないホタルが抱える問題から逃げたのではなく、その問題と向き合い、飛べないホタルに思いを馳せ、自分に何ができるのか考えていたのではないかと。だからこそ飛べないホタルが捕まりそうになった時、あのホタルは助けたのだと。

私は今紹介したこのシーンこそが作者が伝えたいことを表しているのだと思う。この作品は小学校教師であった小沢さんがクラスで起こっていたじめめをなくすために書いた。いじめられていたのは足が不自由な少女だった。結局いじめはなくなった。『とべないホタル』が子ども達の心の中に入っていったのだ。しかし私は考えた。この作品が影響を与えたのは周囲の子ども達だけでなく、「とべないホタル」である少女にも勇気を与えたのではないかと。「とべないホタル」の立場になったとき、自分のことを考え、困ったときに手を差し伸べてくれる誰かがいるということは大変力強い事だと思うのだ。そのような温かさがこの文章からは感じることができるので、この作品は多くの人に影響を与えてきたのではないだろうか。

この作品は、小沢さんが強制したわけではなく、この話に心を打たれた他の先生方やPTAのおかげで広まっていったのだという。それも優しきで包み込むような温かい文章や、兄弟ホタル達の少し複雑な心境が、読み手の心に強く訴えかけて、思いやりを植えつけていくからだろう。その思いやりの輪はきっとこれからもこのような作品を通して広まっていくのだと思う。

銅賞（高校生部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

雨降る後に

高岡高等学校二年 井波 由梨香

青々とした木々が風に揺れ、葉っぱの間からのぞく光が地面を照らし、セミが鳴き、鳥も鳴き、私はまるで一つの絵画を見ているような気持ちだった。

とはいえ、まだ弱冠五才の私には風景を楽しむなんて二の次で、光がさし示す方向へただひたすらに歩いて行った。

あるのは、この先に何があるのかという好奇心だけだった。

「ああ。あそこにかわいいはながある。あ、ちいさなかわもある。きらきらだあ。」

どれだけ時間が過ぎたのだろう。どこかで空が怒りの声を上げているのが聞こえる。

山の天気は変わりやすい。

瞬く間に晴れた顔に暗雲が立ち込め、今にも襲いかかってきそうな勢いである。

その時、私は我に返った。

「おそらが…かみなりさまがおこってる。ここどこ。ままもばもないの。」

ポツ、ポツと雨粒達が次々に落ちてくる。

さっきまでの好奇心は消え失せ、森は突然姿を変えた。

ビュー。どこからともなく風がささやいた。周りを見回してみると小高い丘上に凜々しいおおかみがいた。

おおかみはじっとこちらを見て、振り返り駆けていった。

「まって！おおかみさん。」

私は走って走って森のシャワーの中を走り続けた。「ただ追いつきたい」その一心で。

おおかみの姿が見えなくなった時、目の前に洞窟があった。私は何かに引きつけられるかのように入った。すると背後から、

「なぜ人の子どもがこんな場所にいる。」

「うわっ。だれ？」

私は、目を大きく見開いた。そこにはさっきのおおかみがいた。ただ人の言葉と話している。透き通るような毛並みに鋭く光る目。しかし、その中に暖かなものがみえたのは気のせいだろうか。

「あなたのなまえは？」

「名前？そんなものお前に教える必要ない。」

そう言いつつもなんだか悲しい感じがした。普通なら気味悪がって泣き叫びそうだが、彼といるこの空間はとても安心できた。

「おおかみさんはわたしをたすけてくれたのね。このまえね。おばあちゃんがいつたの。やまのなかにはりっぱなおおかみがいて、やまをまもって、ひとにめぐみをもたらすんだって。」

彼は何か言いかけたが言い止め、洞窟を飛び出し、しばらくしていくつかの果実をプレゼントしてくれた。

「食え。腹が減っているだろう。」

私は彼の優しさに心が満たされた。

ザーザー降りの雨が止み、霧が晴れ始め、木漏れ日が地上を照らし出した。

お腹が満たされ、暖かくなってきたので瞼が落ちてきた。その時、彼は何かつぶやいていたようだったが、理解することはできなかった。

わかったのは、優しい温かさに包まれ、心地よかったことだけだった。

気がつくとは私は祖父母が住む山村の近くにいた。

太陽が私を優しく抱いた。

ジリリリ…カチツ。目覚まし時計が鳴り響く。ここは私が今住むマンションだ。うつろな目をしながら頭を働かせようとすると動かない。

それにしても雪が降ってほしいくらい暑い。こんな日は決まってあの不思議な夢を見る。現実かどうかともわからない空想のような出来事。でも彼からもらったであるう木の実が私の手にある。

くわー。大きなあくびをして十分に背伸びをする。そして私はいつものようにパンを焼き始めた。

佳作（高校生の部）

題材『高岡銅器史』

いもの

高岡西高等学校二年 原 萌々花

いものの町高岡

えんやしややっしやい

昔はそんなかけ声でつくられていたいもの

金屋町の石だたみを歩くと

チリンチリン

いものの風鈴が音を奏でている

今日もどこかで

えんやしややっしやい

そんなかけ声が聞こえてきそうな

そんな夏の日であった

【文芸（短歌・俳句）部門】

金賞（中学生の部）

題材『風の盆恋歌』

おわら風の盆

富山市立堀川中学校三年 山下 祈子

胡弓の音

指先にのり

風と舞う

金賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

おおかみこどもの雨と雪を読んで

富山高等学校一年 松井 杏輔

嬉しくも

寂しくもある

子の巣立ち

耳を澄まして

雨の声きく

銀賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

南砺市立福光中学校三年 細川 依落

おおかみの

仔となりしこと

選ぶ夏

深山の森に

狼星（シリウス）光る

銀賞（中学生の部）

題材『まんが道』

片山学園中学校一年 木村 洸斗

桜舞い

夢追う一歩

自分道

銀賞（高校生の部）

題材『夜の花火』

夏の一場面

大門高等学校一年 坂下 隆将

真っ黒な

キャンバスかざる

夏の花

銀賞（高校生の部）

題材『万葉集』

雨晴

高岡高等学校二年 金田 依里香

雨晴

耳に残った

蝉時雨

銅賞（中学生の部）

題材『人生の約束』

新湊曳山祭

片山学園中学校二年 高橋 勇樹

胸躍る

香る秋風

夜空染め

銅賞（高校生の部）

題材『月影ペイペ』

おわら風の盆

富山高等学校一年 桑原 詩乃

風の盆

連なる笠の

影落ちて

銅賞（高校生の部）

題材『越中万葉百科』

雨晴海岸

高岡高等学校二年 高橋 舞

寒の雨

晴らす神山

鯿おこし

銅賞（高校生の部）

題材『飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ』

飛鳥へそしてまだ見ぬ子へを読んで「輝く命」

富山高等学校一年 村田 みのり

羽化蟬の

そのときめきの

うすみどり

佳作（中学生の部）

題材『螢川』

雪蛍

射水市立射北中学校三年 松尾 凜夏

それぞれの

思いがともる

雪蛍

佳作（高校生の部）

題材『富山の伝統ある場所や物』

富山の伝統

高岡西高等学校一年 坂森 加奈

光禅寺

ハットリ君の

お出迎え

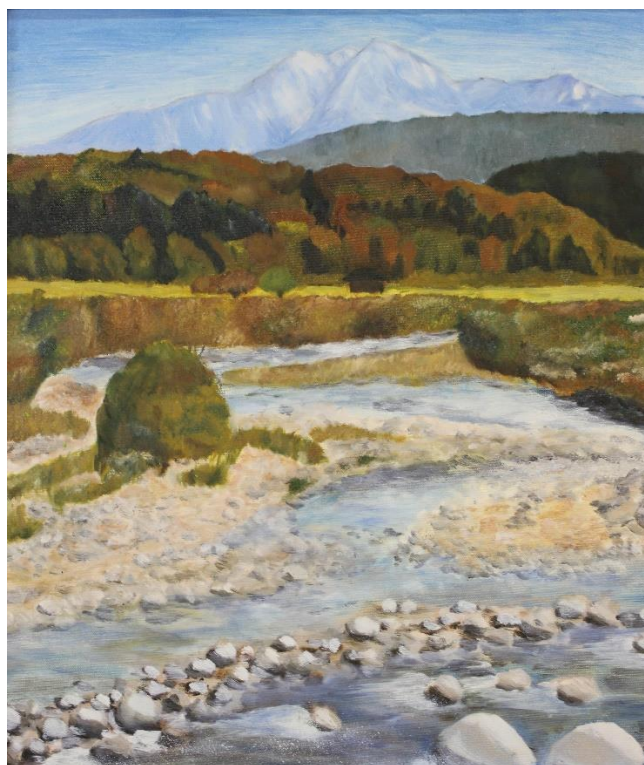
【美術部門】



知事賞(中学生の部)

「夕日に照る立山と稲穂」<題材「万葉集」>

富山市立北部中学校2年 田近 志織



知事賞(高校生の部)

「たち山とはいつきの河」<題材「越中万葉歌碑めぐり」>

富山中部高等学校2年 吉森 優菜



金賞(中学生の部)

「おわら風の盆」<題材「風の盆恋歌」>

富山市立堀川中学校3年 山下 祈子



金賞(高校生の部)

「雪とかけた茶碗」<題材「納棺夫日記」>

小杉高等学校1年 西田 梨乃



銀賞(中学生の部)

「劔岳」<題材「劔岳<点の記>」>

富山市立堀川中学校3年 辻井 悠翔



銀賞(中学生の部)

「決意」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山市立堀川中学校3年 堀井 彩乃



銀賞(高校生の部)

「浪漫」<題材「人生の約束」>

富山中部高等学校3年 長原 詩桜



銀賞(高校生の部)

「螢の森」<題材「螢川」>

富山中部高等学校2年 林 瑞稀



銅賞(高校生の部)

「岩瀬の曳山車祭」<題材「漂民 次郎吉」>

富山中部高等学校2年 松隈 健留



銅賞(高校生の部)

「雪の劔岳」<題材「劔岳<点の記>」>

富山北部高等学校1年 姉崎 咲良



銅賞(高校生の部)

「狼」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山北部高等学校1年 中田 麗



佳作(中学生の部)

「ライチョウ」<題材「ライチョウは生きる」>

富山市立堀川中学校3年 園城 咲来



佳作(高校生の部)

「富山食」<題材「富山なぞ食探検」>

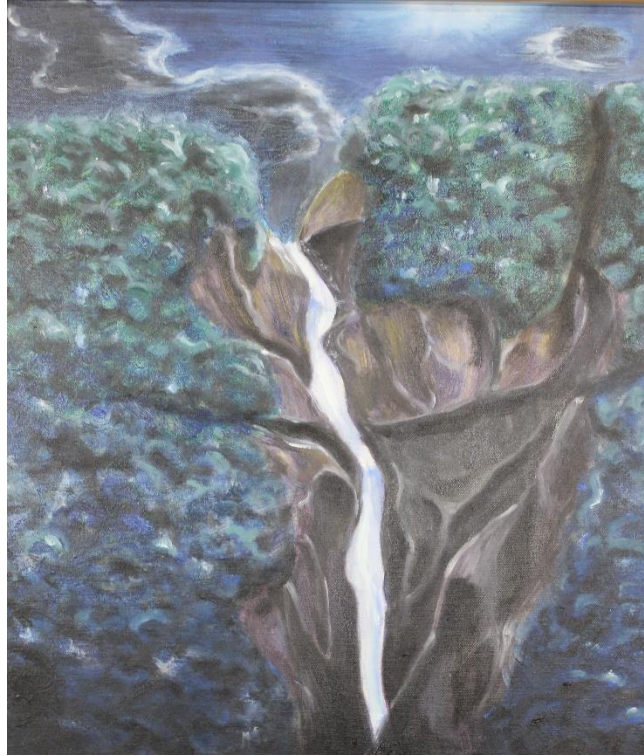
小杉高等学校1年 中谷 文香



佳作(高校生の部)

「真白の恋」<題材「真白の恋」>

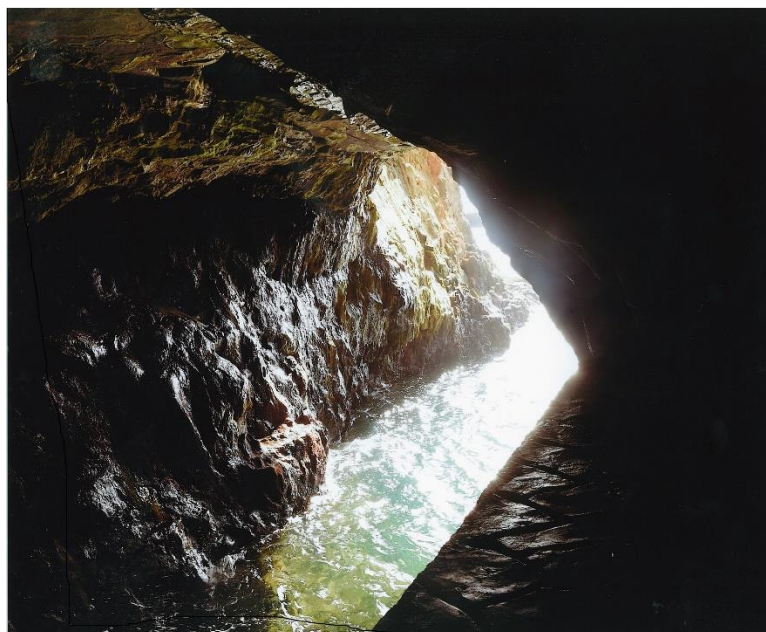
高岡高等支援学校1年 水野 佳乃子



佳作(高校生の部)

「名宝」<題材「とやまの滝」>

富山中部高等学校2年 守山 光星



知事賞(高校生の部)

「海の輝き」<題材「山と溪谷」>

富山高等学校2年 大井 創世



金賞(高校生の部)

「祭りの兄弟」<題材「風の盆恋歌」>

高岡第一高等学校3年 米島 菜津美



銀賞(高校生の部)

「平和への祈り」<題材「ルメイ・最後の空襲」>

富山高等学校2年 渡邊 奈央



銀賞(高校生の部)

「あしたへ」<題材「RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ」>

富山西高等学校2年 高橋 綾



銅賞(高校生の部)

「路地」<題材「風のまにまに」>

高岡第一高等学校1年 草開 真弘



銅賞(高校生の部)

「空へ」<題材「ドラえもん」>

富山高等学校2年 横井 里奈



銅賞(高校生の部)

「もう1つの立山」<題材「富山の風景」>

富山北部高等学校1年 関山 明里



佳作(高校生の部)

「桜祭り」<題材「富山 わがまちこころ一番」>

泊高等学校2年 沢野 桜雪



佳作(高校生の部)

「故郷の街並み」<題材「富山 わがまちこ一番」>

泊高等学校2年 大海寺 樹里



佳作(高校生の部)

「時を超えて」<題材「富山県を築いた人々」>

富山東高等学校1年 西田 奈央



佳作(高校生の部)

「涼花」<題材「風の盆の町」>

富山東高等学校1年 中川 莉那



佳作(高校生の部)

「思い出のつまった海岸」<題材「ドラえもん」>

富山北部高等学校1年 越 柚葵

